



エムポ！

1と2
セット

体が重い。

全身がドクドクと脈打って活動しているのに
だる過ぎて目を開く力も出ない。

におい。

さっきまでいた場所の臭いとまるで違う。
肌に触れる空気も違う。

ここはどこだ？

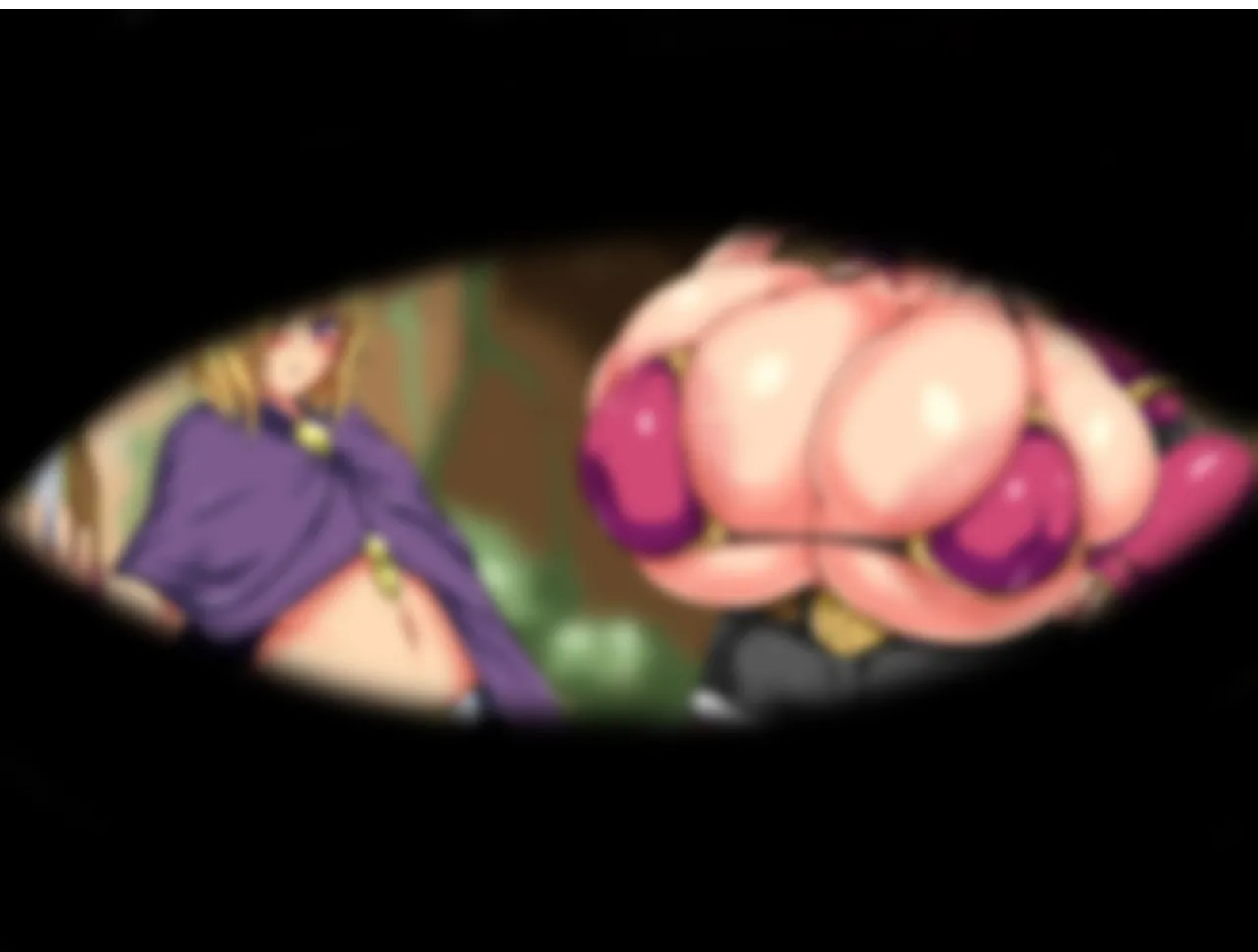
不安で確かめずにはいられない。

目を開け！

状況を把握しろ！

いい加減開きやがれ！

このヘタレまぶた！



「なんかへたってる若い男を発見♪
思わぬ収穫♪まずまずの成果だな。」



「助けて縛って、奴隷として売りにいこうぜ。
若い男は労働力として高値だからな。」

「まったくあなたという人は。
ダンジョン脱落者を見つけたら即奴隷売りにしよう
とするのはやめなさいと言ってるでしょう。」



「この恰好からして彼は流人でしょうね。
古代文明の遺産の誤作動で異界から召喚された者。
奴隷で売るより、飼っておく方がお得です。」

「ほおっ。これがルビトねえ。初めて見たぜ。
確かに変わった格好してるな。」

「彼らの衣類、持ち物も高値で取引されますから
残さず回収ですよ♪
では、袋詰めよろしくお願いしますね。」

「見るからに急性マナ中毒で動けないとは思いますが
逃げられないように気をつけてください。」



朦朧とする中、どこかに運ばれ剥ぎ取られて縛られ
何故か挟まれたことばどうにか認識できていた。

。。。超巨根になつてゐる幻影が見える。

「おお♪ お前の言う通りデカいな！
モンスター程じゃねえけど充分巨根だぜ。
マジでやっちまうていいんだな？」

「ええ。マナ中毒の緩和とどれだけ射精できるか
調べないといけませんから。存分に♪」



あれ……？ あのチンポは本物なのか……！
擦れる幅が半端なく快感が脳天に直撃し続ける。



「……ぐうおおおおおっー」

「ちよっ……！ 早っ……！
早漏過ぎだぜって、おおおおっ？
な、何だこれ！射精が長え！」

「流人の中にはこの世界への適応現象が過剰で
体内の魔門が異常活発することがあるんです。
彼もそれ。」

外気マナを異常吸収して体内マナへと変換し
続ける。放置しておくで負荷で死ぬし、マナの
流れが大き過ぎて魔法もほぼ使用不可と戦力
としては超絶ゴミですが、体内の大量のマナを
精液として放出できるので補給マナタンクとし
ては超絶有能です。」



「放たれる精液はハイマナポーションと同等の効力。つまり彼は高価で希少な材料を自動で生産する『金のなる木』。なので、あとはどれほど射精できるかが重要というわけです。」

「なるなる。そーいうことがあ。

にしても凄えな、これは。

射精中にまたイって全然精液が止まらねえ♪

これだけ反応されるとやる気爆上がりだな！」



射精して敏感な状態を容赦なく爆乳が
扱き尽くしてくる。

「がああああああひっ！
もおやめえぐうはあっ！
ああああああああっ！」

「叫ぼうが気絶しようが気にせずチンポが射精
できてる間は搾りまくって下さいね。
射精で死ぬことはないでしょうから。」

ふふっ。「これはまだまだ出そうですね♪」



「ふう……。マジで半端ねえなあ♪

二十発は出させたと思うけどまだ出やがるか。
モンチンでもこれだけ射精するのは見たことねえ。

しかし、搾るたびに本体がのたうち過ぎてウゼエ
ことウゼエこと。」

「フー」とでせうかくマナ補給し放題だ。

魔法で強化した上で搾ってやるよ。

燃費が悪いから普通はエロでなんか使えねーんだよ。
てめー相手の特別だぜ♪」





「剛腕強化って奴だ。」

全力でやると胸筋と一緒におっぱいまで膨らんでさらに張って突き出るのが困りもんなんだが今はちよつどいいだろ？」

「弾力の塊なおっぱいと剛腕で固めて抵抗できないままチンポをすり潰してやるよ」





「おらっおらっおん。」

「この極圧の中どんだけもつか挑戦してみな。
ま、即死だろうけどな！」



「即死の二発目」♪

「予想通りもがく」とも出来ねえだろ？
「このハメ技で即死させ続けてやるぜえ〜！」





「ぐうほおおおおっ！」

「……これでえ即死の42発目……！
合計だと60発はいったか？」

「ふう。さすがに量も勢いもスカスカになってんなあ。
もう打ち止めて見ていいだろ。
……ほお、泡噴いてるがまだ本体も意識はあるな。
やるじゃねえか、悪くねえ耐久度だな。
これでモンチン超えだったら文句ねえんだが。」



「・言ってるそばから何だあ？
「こ」にきてデカくなってるのか！」

「し、信じらんねえ！
この状態でさらに巨大に勃起するなんざ。
しかもデケえ！俺の谷間から飛び出るぞ！これえ！」





「まだ変質が完了していないのでしよう。

土台作成は終わっていわば今は成長期みたいなもの。

何もしなければそれなりですが手をかけるとその分伸びる。

今のうち経験値を積ませた方が良さそうですね。

ですのでハメちゃっていいですよ。

ハメてる最中にまた大きくなるかもしれませんが。」

「むしろ望むところだな！

おおお♪硬さも増してやがるぜえ♪

まさかこんなとこでモンチン超えとやれるとはな！

やべえ！テンション爆上がり過ぎだぜ！」



「ああああああんっっ！
デ、デケえ！ んんんんっ！
この子宮がチンポ型に変形する
感じいたまらねえ！
あああああんっ！」

「しかも痙攣してんのがいい感じに響くう
くく♪ おほおほおおおおっ！
相当限界だろうが萎えてる暇なんて
与えねえからなあ♪」

『あああああああぁあつっ！
イクイクイクイクウウツ！
イククウウ~~~~ツツ！』

「はあはあはあつ♪
デカチンも効くけどお精液ローション
もヤベえぜえ〜。あああぁんっ！」

「熱気と臭いで体がメチャイキやすい♪
おほおおおおっ！あああああぁあつっ！
ヤツベえっっ！まひやイッグウウツ！」

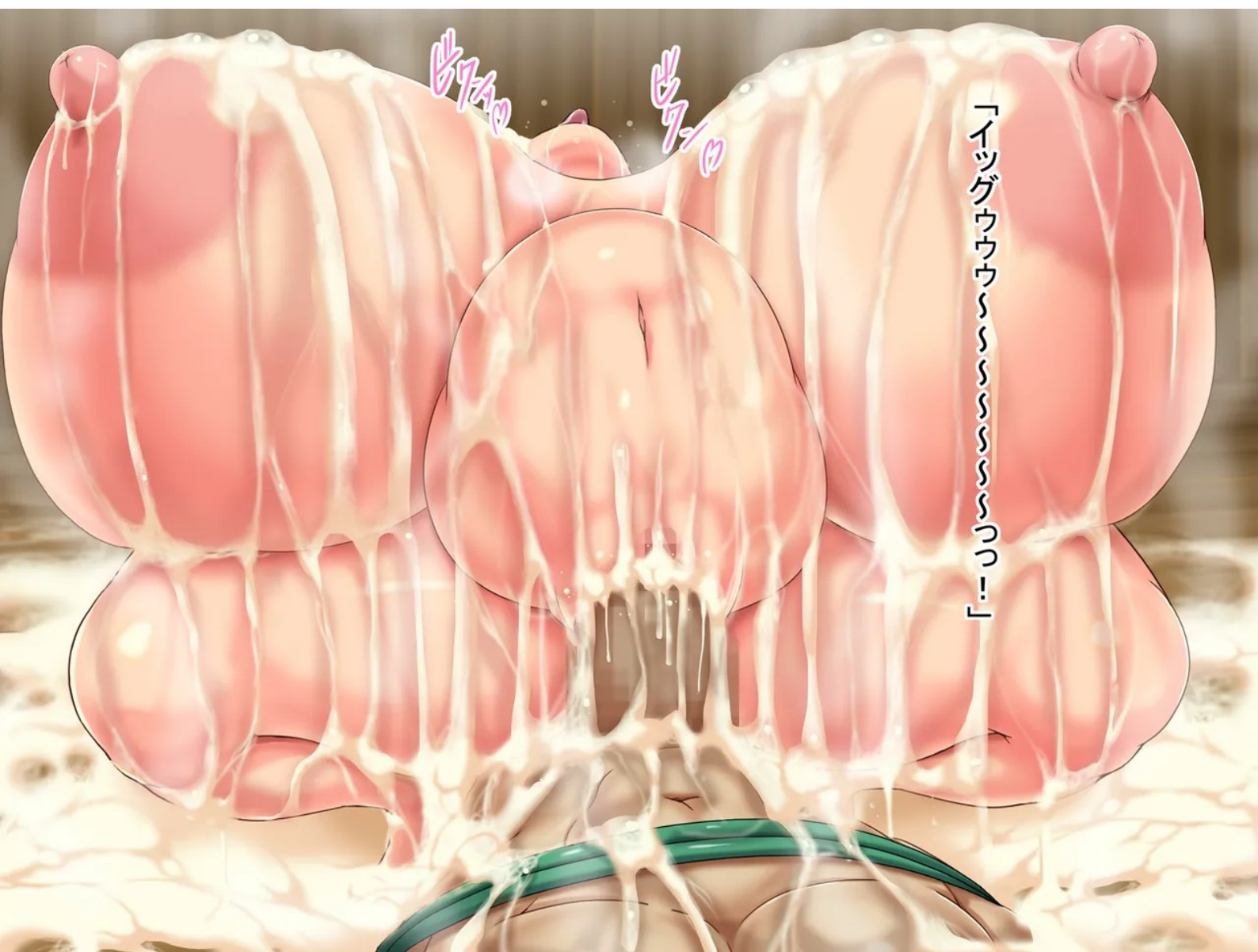






「ひゃああああああんっ！
マ、マジかあつ……信じらんねえ！
「に」にきて精液まで復活してやがるう！」

「これは本格的に腰が止まらねえ……
ああああああんっ！
しゅごほおおおおおっ！
あああイクイクイク……！」



ビッパッ

ビッパッ

「イッグウウ~~~~~っ!!」

「はあはあっ♪ なるなる。
射精が戻ったのは「いつが原因だな。
キンタマもバカでっかくなってるやがる。
この態勢で掴めるとか、なんつーデカ
タマだ！」

「いーぜいーいぜい♪
こんなに滾るのは久しぶりだ。
今度は子宮で吸い上げて剛腕
で搾り尽くしてやる♪」





「おおおおおっ！
イッグウウッッ！」

ゴボッ♡

「あひやああああんっ！
イクイクイクウウッ！」

ドビュウ♡

「しえいえきい凄ほおおっ！
中出ひいイッグウウッ！」

ブビュウ♡

「イグイグイグイグイグッ！
イ、イグウウウッッ！」

どうしようもないほどの刺激に体がのけ反り続ける。

気絶と目覚めを繰り返す自分を
無視するように進化中のペニスは
大量の精液を放出し続けている。

「おおおおおおお」おおおおおっ♪
「ごんな中出ひい初めへええっ！
このまま俺を射ち上げりよおおおおおっ！
出へえ！出へえええっ！もっひよ出へええっ！」



「おほおおおおおっ
ひゅ」おほおおっ



勢いを増す射精と子宮の飽和で
ペニスが押し出されていく。
本人も子宮が限界なのになおも
タマを手放そうとしない。

『じぎゅっ イッグウウウッッ！
おほおほおひいほおおおっ！
おごおほおほおおおおおっ！』





がくりと巨大な肌色の球体が落ちる。
大絶頂の連続で気絶して彼女が倒れ込んでくる。

チカチカと点滅する視界が肌色に覆われようとしたとき…。

「搾り尽くすのはいいですけど
押し潰すのはダメですよ。
気をつけて下さいね…！」

限界まで膨らんだ精液腹に容赦なく
蹴りがぶち込まれるのを見る。



「ちょっと邪魔なので壁際
でヒクついていて下さい。」

「うわあっ♪
でっかああ♪

これほどの巨根ならモンチン堕ち
の変態共も歓喜するでしょうね。
ふふっ、商売の幅が広がりますね。」

「しかも何、キンタマ踏まれて悦んで
精液がまたビュルビュル出てますよ？
まだ出し足りないなんて、とんだ変態♪

しかたないですね。
そんな変態さんのために早速商売を
開始しましょうか。」



「体が限界？
まあ、当然でしょうね。」

でも問題はありません。
この私が完全サポートしてあげますから。」

「ヘルヒール」で体力全回復、オールリフレッシュで疲労をゼロに。
精液が出なくなるまで土台の体は嫌でも全快にしてあげる♪
有望な変態チンポはただひたすら射精しとけばいいんです♪」



「さすがに」の状態ではさきほど挙げた
上位魔法は使えませんね。

それでは「ファーストリリース」。





「こゝで補足です。
あの子と違って大きくしたのではなく元に戻した
だけです。正確には元に戻りつつ、ですが。」

「この世界では信じられない程の豊乳の持ち主には
逆らわない、が鉄則なんですよ。
それをふまえて以後よろしく願いますね♪」



男性は外気マナの吸収に優れ、魔力の回復が速い。
女性は体内マナ容量が大きく魔力放出に優れるが、魔力の回復が遅い。

中堅どころまでは男女比は半々だが、強さが上位になるにつれ女性の割合が増え、強者と呼ばれる存在のほとんどは女性である。
男性がその特性を活かし技術と戦略で上手く立ち回らうとも女性強者の圧倒的な魔力の前では全て無意味となる。それほど性別の壁は大きい。

極めて魔力の強い女性の弱点といえるのは、皆胸が凄まじく大きいこと。
魔膨症と呼ばれ、魔法で縮小も可能だが体内マナ容量と密接しているからか縮小すると魔力放出が極端に落ちる。そのため動きづらくとも超乳のまま生活してる者は多い。

ちなみに胸が大きいからといって魔力が強いわけではなく肉体的に豊乳なだけの場合も存分にある。
さらに言うと魔法で胸を肥大させても魔力が上がったという報告はない。



—ダンジョン都市「ラミアス」—

「ハイマナを超える回復量でこの値段？」

「この規模の都市で許可証があるから大丈夫だと思っけど、安すぎて心配だなあ。何か白いし。」

「……ふん。なるほどねえ。お試しの無料一本有難くいただくわね。」



「えっえええええっ？
シエーラちゃん飲むの？」

「大丈夫よ。
多分、ただの精液だし。」

「そっかあ。ただの精液かあ……って、精液いっしょ？」

「んっ。なあ……なんて濃度お……
これって濃縮でもしてるの？」



「…ふむふむ。これで加工は一切なし、ね。しかも
試供品だけで相当な量なのに、只今直搾り営業中？
どんなセイ能してるのよ、そいつ！」

上限5人まで参加の50ℓ直搾りがこの値段…。
ダンジョン探索再開可能までの生活費を考えると
断然搾る方がお得ね。
えっとお、本店の位置はそこね。 ありがと♪」

「いやいやシエーラちゃん！ちよい待ってえ！
なんか勝手に如何わしい流れになってるんだけど！
そもそも、せ、精液に疑問はないのお？」

「マナ回復力が強い男性の精液が
回復の足しになるのは結構有名
な話だけど？
まあ、ここまでデタラメな効能は
聞いたことはないけどね。」



—マナソープ「回復の白き泉」—

「……これはまた予想以上のドデカチンポです。
魔法で大きくしてるわけではないんですよね？」

「ええ。手を加えた痕跡はまるで見つけれないわね。
素でこの超巨根巨玉よ。そもそも精液が売りの店で
精液量が変わ化しない巨大化をやっても意味ないしね。」

「凄い……これなら
いっぱい出そうだね。」

「なんで皆普通にしてるのお？
恥ずかしいの……っ！」





「オチンポなんてダンジョンで盛ってるモンスターで見慣れてますし。ナニを今さらですね。」

「人間とモンスターは違うと思いますけどお！
そ、それに今までで一番大きいし…！」

「指の隙間からガン見してるむっつりちゃん
がきつちりチンポサイズまで把握してる件。
満場一致でソフィが一番スケベよね。」

「それはそうだけれど…。
本人は頑張って理性でスケベを抑え込もう
としてるんだからあ、そこは評価してあげ
ないとダメだよ。」

「オチンポがビクビクしてきましたあ。
あら？これって、もしかして。」

「ちよつと弄ってただけなんだけど。
精液量多すぎて早漏っぽいわね！
あつ。もう精液が見えて……」

「ソフィ！
器持って正面に！」

「えっえええっ！ちよつ……！
待って！う、器！器……！」



「と、とりあえず、こんな感じっ?」





「うわあつとお！ ちよっ…一度に出過ぎ…！
こんのお…！ 止まりなさいっての！」

「あらら！ 射精も規格外ですね。
そして、シェーラさん容赦ないです！」

「およ？ ソフィ〜。
精液ぶっかけられ過ぎて理性
飛んでる〜？」

「……ふあつ……？」

ぶるっ♡

ぶるっ♡

ビクッ♡

ビクッ♡



「……ち、ちょっと驚いただけし！
べ、別に興奮なんかしてないんだからあ……！
あふうひゃああっ！」

「い、今のは精液が変なとこに流れ込んで
きただけだし！ 感じてないし！」

「どうどう。とりあえず、そのめっちゃ勃起した
乳首を抑えてからだねえ。どう見ても盛り
まくりだよねえ。」



「もうそろそろ解放してあげないと彼のオチンチン、破裂しちゃいそうですけど?」

「いやまさか一度にここまで出るなんて想定外だわ。」

一度射精の勢いを確認してからと、三人に提案し損ねたことがあるのよ。それを話してからね。うわあ。自分でやっというてなんだけど、チンポがとんでもない太さになってるわね……!」



「私はともかくあなた達三人は完全回復まで精飲するのは量的にきついでしょ。精液も時間経過でマナ濃度薄くなるみたいだし、手っ取り早くアナルから直接ぶち込む。」

このコースは搾液量が決められているだけで後は自由にしたいと言われたから問題もないわ。

あとは二人の意見のみ！

ソフィはするの確定。表面上は嫌がってもぶち込んだ途端にアへるに違いないわ。一番回復しないといけない子がモタモタされても困るしね。」

「この射精なら先端を少し捻じ込んで、ぶっばすればかなり量でも注ぎ込めると思うけど、どっつー。」





「ああああんっ！ す、凄いっ！
マナがどんどん体に沁み込むっ！」

ぷるっ

「あふうっ！ ほひいっ！」

「精液ひゅー！ ほおおひいのおおおっ！
一度にこんなにいい！ お腹熱い……！
さすがに感じちゃいますぅっ！」

びしょ

びしょ



「ちよっ…!! シエーラちゃん!!
そんな無理矢理…!!
ふぁあっ! あぁぁあぁあっ!」

「一度射精を溜めたせいか、精液多すぎて
ちよつとの間しか射禁できないのよ。
猶予はゼロ。
すべこべ言わずにブチ込まれなさい!
このむつつりスケベちゃん!」





「おほおおおおっ！
ひいほおおおおっ」



「ぢよっ・それ以上らめへえええっ！
にや、にやにか来ちゃうっ！
来ひゃうからああああああっ！」

「っと！急にチンポが細くなって…
…あっ…」





「おほおおおおおおおおお！
お、おひりいがあるあああつひやあああつ！
らめええええつ！ さ、裂けりゅうつ！」

ビクッ

ビクッ

「さ、さすがはむつつりドスケベ。
事故とはいえこのデカチンがぶっ刺さるなんて。

急に細くなったのは規定量に達して魔導具リング
が射禁状態に入ったからね。
うわあ。ただでさえデカタマなのにさらにデカく
なってる……」



「あひゅほおおおおおおっ！」

（な、なんであんな丸太みたいなのが普通に入っちゃってるのお
おおおっ！ お腹苦しいいっ！ 感覚おかしいよおおっ！
しゃ、射精は止まってるみたいけどお、変わらずビクンビク
ン脈打ちまくってええっ中で動き回ってるうううっ！）

「シエ・しえらほおおおおおっ！
いひひひひひひっ！ ふあああああっ！」

（ら、らめええっ！ 口がまわらなひひっ！
シエーラちゃん！ 早く抜いてえええええっ！
も、もお来ちゃうからああああっ！
凄いの来ちゃうからああああああああっ！
もおらめええっ！ らめえええっ！
おほおおおおおっ！）



「あひゃあああああんっ！
おほおおおおおおおっ」

(い、一度イッたら、腰が勝手にいいっ！

らめえこれえっ！ ドデカチンポ気持ちいいよおおっ！
ビクビクが凄くなってえとんどん感じちゃうよおおっ！)

キュン♡

キュン♡

ソフィの締め付けと腰ふりで射禁状態のペニスが
容赦なく達せられる。

ペニスは無駄に反りと硬さを増す。そのためタマ
を膨張させながら徐々に竿がアナルからずり抜
けていく。

ゴボ♡





「ほおおおー」「おおおおおおおー」
ひゅー「ほおおおおおおおおおー」

精液は濃くかなりのゲル状のため逆噴射に
時間がかかる。それはマナを吸収するのに
それなりに足りる時間。

制御が外れたソフィは盛大にあへって精液を
漏らしまくりながらも充分なほどにマナを
回復していく。



「ふー」おおおおっ！」



「ソフィが締め搾ったせいで私の精飲分が足りないんだけど。
まったくあのドスケベちゃんは。
さて、私の嗅覚がまだここにお宝があるといってるわね！」

「ドスケベソフィでも搾りきれなかった濃厚精液を
私が直にほじくり出してあげるわ♪」

グ
リ
ユ
ウ



「あれ？もしかしてチンポイっちゃってる？
チンポに腕突っ込まれて気持ちよくなってるの？
また金玉デカくして、どんだけ変態なのかしら♪」

「いくらイってもその強力な魔導具相手じゃ一滴も
タマから出せないだろうけどね。
んっ……おっ。あつたあつた♪」





「肉壁にこびり付いていた超濃厚ゼリー精液♪
うわぁ。余裕で手で掴めるわね。
どんだけ濃いだよ。これ♪」

「それじゃ味が薄くなる前にいただきまあ〜す。
むぐう……」

(うわあっ♪ 一口で全身にマナが漲るう！
なにこれえ…！ この充填感、くせになりそお…♪)

「むぐもぐう！」「くりっ…♪
あああっ…！ んんっ…！」



「ふうふうおおおおっ！」



ビクッ♡

ビクッ♡

「もっともっとちょうだい……
さらに奥にならごびり付いてるかしら。」

尿道を容赦なくまさぐるシェーラ。
その行為を中断させるように鐘の音が鳴り響く。



「残念。終了の合図ね。」

ふふっ。色々と気に入ったわ。
またダンジョンから帰ってきたらよろしくね？」

そして、休む間もなく次の客がやってくる。







































